

戸籍の窓口

(敬称略)

結婚

林原 拓斗 ♡ 齋藤 麻未 西 栄
辻内 淳 ♡ 森川 弘美 共 栄

おくやみ

中村 安治 (89) 4/14 共 栄
下浦 實 (80) 4/26 2 4 区

善意のこころ

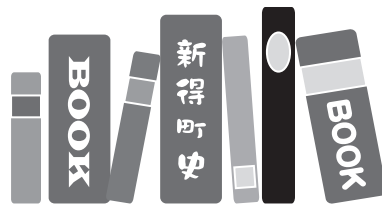
(敬称略)

町や町の施設に

- 岩野建設株式会社 (岩野光一代表取締役社長)
青少年健全育成用として500万円
- 新得町地域おこし協力隊一同
図書「大丈夫、働けます。」を図書館へ



★
★
★
★
★



図書館だより

詳しい情報などは町ホームページの図書館コーナーをご覧ください。

「不死身の特攻兵」

鴻上 尚史

太平洋戦争の末期に実施された「特別攻撃隊」。戦死を前提とする攻撃によって、若者たちが命を落としていった。だが、陸軍第一回の特攻から計9回の出撃をし、9回生還した特攻兵がいた。その特攻兵、佐々木友次氏は、戦後の日本を生き抜き2016年2月に亡くなった。鴻上尚史氏が生前の佐々木氏本人へインタビュー。

飛行機がただ好きだった男が、なぜ、軍では絶対である上官の命令に背き、命の尊厳を守りぬけたのか。我々も同じ状況になったとき、佐々木氏と同じことができるだろうか。戦後72年。実は本質的には日本社会は変わっていないのではないか。本当に特攻は志願だったのか、そして、なぜあんなにも賛美されたのか。命を消費する日本型組織から、一人の人間として抜け出す強さの源に迫る。



日課のパークゴルフを楽しむ板垣さん



パークゴルフは僕の日課で終生運動だね。帰ってからの晩酌は、格別だよ。

No.422

「パークゴルフは毎日行くよ。打つ感触を確かめてる感じかな」と話すのは、新得パークゴルフ協会の会長を務める板垣孝市さん。

板垣さんは新得町で生まれ、8人きょうだいの7番目、5男として育った。

「昔はよく近くの川でどじょう捕りをしたり、近所の親戚の家におやつ代わりのおにぎりをもらいに行ったりチョコチョコしてたね。昔はほら、おやつなんてなかったからさ。戦時中は学校に行っても授業なんてしないでタコソバ(藪塚のこと)を掘ってたよ。農家の畑の芋拾いも手伝ったね。今思えばあれも勤労奉仕だったのかなあ」と当時を振り返る。

「父親は土建関係の仕事でね。国鉄の宿舎を建てに広尾やせたなに行っている間は長いこと家になかったね。びっくりしたのは、せたなから帰ってきた時によその子どもを連れてきたことだね。働ぎに来てた女の人が現場に連れてきていた子どもに、新得に来るかいつて声かけたら、行くっ！って言うたからって。その子の母親もお願い



板垣 孝市さん (84歳)
同和町内会

いしますって感じだったみたいだね。10歳の男の子でみんな年が近かったから本場の兄弟みたいと一緒に育ったね。たまにせたなに帰って母親と会ってみたいだけ、大人になってもそのまま新得で生活してたよ。うちの母親も僕らと同じように育てていたしね」と驚きの過去を明かす。

根室の高校を卒業後、明治大学建築学科に入学。大学卒業後は新得に戻り、役場職員となられた板垣さん。仕事の話を伺った。

「最初は嘱託職員を4年ぐらいやらせてもらって、地籍調査が始まる時に正職員にしてもらったんだよね。それが新得で一番最初の地籍図だったんだよ。トムラウシ以外の町中歩いて現場確認してね。冬になったら境界杭が分からなくなっちゃつから、記憶が頼りであちこち覚えるのに苦労したね。完成するのに4、5年かかったんじゃないかなあ」と話す。

「でも一番大変だったのは、いきなり水道課長になったときだよ。当時は水道の供用が始まって数年経ってただけで、8年後に水道

メーカーの交代をどうするかなんて、普及させる時は誰も考えてなかったからね。だから料金の考え方をガラッと変えて値上げもしないといけない。議会でも色々質問されてね。あれは大変だったなあ」と懐かしむ。

家の地下に練習場を作り、冬は帯広の雪中パークへ行くという生粋のパークゴルフファン板垣さん。

「50代半ばで始めてね。当時はあちこちに協会ができて盛んだったよ。新得の協会も100人はいたね。幕別が一番盛んだったから、よく札内の古い温泉旅館に奥さんと泊まって大会に出たね。幕別の協会の人声かけてくれたから、くっついていろいろ大会に行ってたよ。オーストリア、アグアム、サイパン、石垣島とかね。旅行といえば、昨年家族で妻の生まれた富山の氷見に北陸旅行へ行っちゃったよ。きれいなところだった」と、奥さんとの思い出を語ってくれた。

最後に元気の秘訣を聞いた。

「やっぱりパークのおかげだろうね。たくさん歩くと、過激なスポーツじゃないしね。晩酌はギネスの黒ビールなんだ。あれが一番美味しいね」と笑顔で話してくれた。きつと今日も板垣さんは、その年齢を感じさせないスイングでパークゴルフ場に爽快な音を響かせている(つたな)。

新着図書

■一般書

- ・かみさまは小学5年生(すみれ) (石川直樹)
- ・極北へ (英国一家、日本をおかわり) (マイケル・ブース)
- ・50点家事 (サチ)
- ・本日晴天お片づけ(伊藤まさこ)
- ・ターシャ・テューダーへの道 (食野雅子)
- ・泣きかたをわすれていた (落合恵子)
- ・玉村警部補の巡礼 (海堂 尊)
- ・震える教室 (近藤史恵)
- ・魔力の胎動 (東野圭吾)



■児童書

- ・カットバック (今野 敏)
- ・トッカン (高殿 巴)
- ・青空と逃げる (辻村深月)
- ・花のいのち (瀬戸内寂聴)
- ・小保方晴子日記 (小保方晴子)
- ・子ども西郷どん (齋藤 孝)
- ・うまはかける (内田麟太郎)
- ・じてんしゃがしゃがしゃ (かさいまり)
- ・おさがり (くすのきしげのり)
- ・めろんさんがね... (とよたかずひこ)



～有料広告を募集しています～

あなたのお店のコマースルをしてみませんか？このスペース(45cm×88cm・2枠)を広告用の枠として開放していますので、ぜひご利用ください。詳しくは町ホームページ、または広報広聴係(64-0521)にご相談ください。掲載料は1枠1回2,500円です。※申し込みが2件を超える場合は、抽選となります。申請書の提出等ありますので、ご相談はお早めに！

あなたの声をお聞かせください！

町政への意見や質問、暮らしの中で感じていることや疑問に思っていること、広報紙を読んだ感想や特集してほしいことなど気軽にお聞かせください。折り込みされているまちづくりレター、Eメール、FAX(裏表紙記載)で受け付けています。後日回答いたしますので、住所、氏名、性別、年齢、電話番号を必ず明記してください。